

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 コロナの日々と市民生活（60分）</p> <p>「コロナの日々」、「ウィズコロナ」とも称される日々を私たちは過ごさざるを得なくなっています。新型コロナウイルス感染症予防には3つの「密」を避け、マスクをつけることが勧められ、新型コロナ禍時代の「新しい生活様式」などと称されています。マスクは日常生活にしっかりと定着し、一時のマスク不足から今では色様々にまるでファッションを競うかのようになっています。しかし、いつまでもウィズコロナでは情けないです。ウィズアウトコロナ、さようならコロナと一日も早く言えるように一緒に頑張ろうではありませんか。</p> <p>新型コロナウイルス感染による新しい肺炎が中国武漢で感染が確認されたとの報道から9ヵ月、この感染症は全世界に流行し続けています。日本でも拡大の第1波には、政府による全国の小・中学校の一斉休校要請が「ショック・ドクトリン」（惨事便乗）であるかのように行われ、暮らし・営業に多大な困難を押し付けながら予防措置がとられ、通勤・通学、営業の自粛などにより感染拡大が収まるかに見られました。しかしその後、感染は第1波をしのぐ勢いで拡大しています。</p> <p>鶴ヶ島市民の感染者は増えています。はじめのころは、「東京由来」だと高をくくっていましたが、感染源が身近に迫ってきているのも大変心配な状況です。クラスターなのかエピセンター（感染震源地）なのか、感染拡大を防ぐにはPCR検査が必要なのでしょうか。PCR検査が感染拡大防止に有効だとの認識は2月当初から言われ続けているところです。国や県に速やかに「防疫」目的のPCR検査を必要とところに実施するよう求めるか、医師会と協力して独自にでも実施すべきではないのでしょうか。検査によって地域の感染状況を明らかにすることが日常生活を営むために必要です。</p> <p>第1波の当初には政府の自粛要請に国民は大いに協力しました。また、「自粛には補償を」との国民の声に押されて、住民一人当たり10万円支給の特別定額給付金や事業所に対する持続化給付金などの補償が実施され、自粛要請に応じたことが、新規感染者の減少につながったものとみられます。しかし、その後はいわゆる「緊急事態宣言の解除」、「東京アラートの解除」などが、感染拡大に向けた対策なしに発出されたことによる緩みとみられる、私は第2波と考える感染急拡大が続いています。</p> <p>6月議会で私は、この感染症を克服した先には、自己責任ではない連帯が基調となる社会を築くことが大事だと考え、市の姿勢についてお聞きしました。詳細な答弁をいただきながら、質問の時間配分に余</p>	市長

裕がなく、答弁に対して十分な再質問ができませんでした。

長引く感染拡大の状況下、有効な対策が示されず、不安ばかりが増しているのではないかと思います。状況は6月議会当時から改善されたとは言えず、働く場を奪われたり事業の継続が困難となるなど困窮する市民がひそやかに増え続け、具体的な施策を講じなければ市民生活が崩壊することさえ予想されます。

鶴ヶ島市は、7月16日の第2回臨時会までに一自治体としてやれることを実施したと言えるのではないかと思います。

その上で、感染拡大収束の予測がつかず、次なる新たなウイルスさえ予想される状況の下で、住民と直に接する地方自治体として国・県に有効な施策を求め、貧富の格差是正と社会保障を市民生活のすみずみに及ぼし、地域の経済生活をしっかりと支える施策をどのように進めていくのか、現時点での市民生活の実態把握と今後の検討課題を明らかにしていただくよう、以下お聞きします。

- (1) 国民健康保険と地域医療について
 - ア PCR等検査について
 - イ 地域医療の現状
 - ウ 国保加入者の医療状況
- (2) 介護保険と介護施設について
- (3) 困窮高齢者のコロナ禍の下での実態について
- (4) コロナ禍による生活困窮者の状況変化について
- (5) 市民をめぐる雇用状況の実態は。
- (6) 市内事業者の経営状況について